



公開対談シリーズ第20回
NINAGAWA 千の目

麻実れい 蜷川幸雄

女優
彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

YUKIO NINAGAWA × REI ASAMI

蜷川(以降N) 麻実さんには、今「コスト・オブ・ユートピア」という9時間の芝居に出ています。久しぶりにご一緒して、何かうまくいった、何があったのかという感じで、伸び伸びと自由に演じていらっやいます。なぜ僕と仕事しなくなっからうまくなったのかを聞こうと思います。外国の演出家ともよくお仕事をしていますよね？

麻実(以降A) そうですね。宝塚退団後は、何年か外国からいらした演出家に稽古をつけていただきました。それまで演出家というのは動きをつけてくださるものだと思っていました。初めて蜷川さんとお仕事をした時から、役者というものは自分で作ってきたものを稽古場でまず見せる、そして足りないものは演出家からいただけるし、余分なものは排除していただくという関係性と

蜷川演出によるギリシャ悲劇やシェイクスピア劇で世界の舞台を経験した麻実れいさん。対談時は蜷川演出による9時間の超大作の稽古真っ只中。お話は宝塚の男役から女性の役へと切り替えるご苦労から、世界の舞台の思い出まで。麻実さんの伸びやかな演技そのままの、さすがらしい対話となりました。

「麻実さんがセリフを言うと、日本が雄大な国に思える。とても存在感がすがすがしい、誇らしい」(蜷川幸雄)

いのがわかり、最近は自分でこうしたいなと思うものを出して。演劇人生の後半に蜷川さんと出会ったことが最大の刺激で、うれしくて、楽しくて。土台としてそれがあったからどんな演出家と組んでも、余分な緊張はなくなりました。

蜷川さんの稽古場では“拾い屋”

N このごろ実に自由ですね。立ち稽古の初日に、「麻実さん、うまくなったね」と言ったら、当然だという顔をしていた。

A いいえ、そんなこと(笑)。何もおっしゃってくださらないから、そういう一言が天使のささやきのようにうれしくて。今でも若い役者さんたちより不器用だし。

N 説明すると、何かダメ出しをしにいきますね。その日は変になります。でも、翌日になるとがらっと変わる。

A 私のところで止められないでしょ。3日後はどうかクリアでき、それ以来「3日待ってください」というのが私のお願いです。蜷川さんのお稽古場では、拾い屋です。言ってくださらないから、他の方に要求するものを拾うのです。

N 不思議な人で、空間がゆったりとしていて、大きい。

A 本当はぼーっとしているだけなのですが。

N いいえ。麻実さんは、空気が澄んだり揺らいだりします。外国の演出家が麻実さんと仕事をしたがるのは、当然だと思います。

宝塚の男役を卒業してから

A 私は宝塚の男役上がりですから、退団してから女を演じるときにはまず無性化させます。性別なしで作る。私の作り方は歌舞伎のおやまさんの作り方をするのかなと思います。

N 自分が表現するものがどういうふうに見えるかということについて、すごく自覚がある。余計な動きがないし、やわらかく見せながら計算が行き届く美しさがある。『桜の園』の時は、間抜けな抜けているところがあって、それがおかしかった。

A 「麻実さん、ラネーフスカヤびったりだよ」とおっしゃって、うれしくてしょうがなく、2日後に「ラネーフスカヤって、ばかだよ」と。褒められているのか、けなされているのか(笑)。

N 愛らしくて抜けている、お金の計算もできない女性を説得力があるように演じる日本の女優さんはなかなかいません。宝塚をおやめになって1本目の芝居は何でしたか？

A 『マクベス』。レディ・マクベスです。女優が最終的にやりたいというレディ・マクベスが最初に来てしまいました。皆さんに『マクベス』をさせていただくのよ」と言ったら、ファンの方が男役だと思って喜んで。「違う違う、レディ・マクベス」と言うのがっかり。次に『ハ

ムレット』をします」と言ったら、「オフィーリアではないですね」みたいに言うから「ハムレット」と言ったら大喜び。

ギリシャは最大級の思い出

N 男性の役から女性をやって、違和感はありませんでしたか？

A ありました。でも、良かったと思います。卒業後は非常に強い女を要求されることが多くて、男役としての声の太さとか低さを使えました。ごめんなさい、ストレートプレイが『マクベス』で、ミュージカルが最初でした。『シカゴ』です。ヴェルマ・ケリーという夫殺しのすごい女を。その後、『危険な関係』『双頭の鷲』ほか、いろいろな作品に出演しました。でもやはり『オイディプス王』の稽古場、花園神社、ギリシャと、これは最大級の思い出ですし、『タイタス・アンドロニカス』では、ストラットフォードのロイヤル・シェイクスピアシアターで、演劇の神様が降りて来るような空間でできて、それはそれは、感謝しています。

N アテネの野外劇場はものすごい勾配がきつくて、客席がのしかかるようにあります。そこで存在感をちゃんと伝えることができる女優さんは数少ないと思って、麻実さんをお願いしました。ギリシャの女優みたいで素敵格好よかった。麻実さんがセリフを言うと、日本が雄大な国に思える。とても存在感がすがすがしい、誇らしい。いい劇場があったら、また一緒に世界制覇に行きたいですね。

A はい、夢ですね。(客席から拍手)

N 今度の9時間の芝居も、稽古はみんな一生懸命で、高校生になったように初々しくやっていますね。

A そうですね。稽古場の台の上に立つと、心配とか迷いがすーと消えて、今すごく楽しいですね。参加できたことがものすごくよかったなと思っています。

N この後は何を？

A 『冬のライオン』を平幹二郎さんと。東京のグローブ座で幕を開けて、北海道以外全国を。『ギリクス』『山の巨人たち』に続けて、また平さんの胸をお借りして。

N 楽しみな企画ですね。今日はありがとうございました。

A ありがとうございました。



Profile

麻実れい あさみれい
1970年宝塚歌劇団に入団。80年雪組のトップスターとなり、85年に宝塚を退団。以降、『シカゴ』『マクベス』『メアリー・ステュアート』『イサドラ』『ハムレット』『蜘蛛女のキス』『サラ』『ストーン夫人のローマの春』等ストレートプレイやミュージカルに数多く主演。蜷川演出作品でも『ギリクス』『オイディプス王』『桜の園』『タイタス・アンドロニカス』『コスト・オブ・ユートピア』に出演し、圧倒的な存在感で客席を魅了した。読売演劇大賞最優秀女優賞、芸術選奨文部科学大臣賞など受賞多数。2006年、紫綬褒章受章。